

青嶺

Seirei

文責 田中泰司

伊万里市立青嶺中学校

次期生徒会長が 決定しました！

去る十二月七日、立候補者4名による立会演説会が行われました。それぞれの思いを力強く主張し、生徒の皆さんは真剣に耳を傾けていました。

全校生徒による厳正な投票の結果、次期生徒会長には山崎結衣子さんが選ばれました。

生徒会は全校生徒が会員で、その自主的な活動によって成り立ちます。「自分たちのことを自分たちで考え、教師の助言のもと、自分たちで実行する」みんなが会長をサポートして、これまでの先輩が培ってきた「青嶺ブランド」を引き継ぎ、更に磨き上げていってほしいと思います。皆さんならばきつと実現できると信じています。

今回の選挙の、立候補者、応援演説者、そして選挙管理委員会の皆さん、本当にご苦労様でした。

「満月の夜に起つて いる海の中の」

十二月の満月の夜、海は大潮で潮の満ち引きは大きくなり、月の引力である潮汐力是一年で最大になります。

その時期に、ほとんどすべての種類のサンゴは一斉に産卵し、潮の流れに乗って遠くまでいこうとします。卵はピンク色で夜の海水面はピンク色に染まります。ほとんどの卵は魚や他の生き物に食べられてしましますが、着床し新たなサンゴ礁を形作るものも多く、生命の営みは長い間繰り返されてきたのです。

たまたま、この目で見る幸運に恵まれたのですが、ゆっくりと一粒ずつ生まれてくる、神秘的な光景は一生忘れられないでしょう。そして、この季節になるたびに、サンゴ礁の海で太古から繰り広げられる、生命の営みを思い出すでしょう。きれいなもの、美しいもの、不思議なもの、この地球上にはもっともっとあるでしょう。興味や好奇心は尽きることがありません。

「髪」に関する一考察

小さい時から人から強制されるのが大嫌いだっただが、髪を切りたくないために受験した話は以前しましたが、高校生の時は、駅伝メンバーは坊主にするという謎ルールで、やっと伸びた髪を泣く泣く切りました。

大学生になり、やっと自由を手にしたと思ったのもつかの間、体育会の役員になり、服装は学服、髪型は三年になるまでスポーツ刈りか坊主という決まりに縛られ、反発し続けました。

無職時代、髪を伸ばして後ろで束ねられるくらいになりました。教員採用試験にはそのままで行きました。教師は人間性が大事！外見なんて関係ない！と思っていました。二次試験では明らかに不機嫌な面接官。髪が原因かは分かりませんが、あえなく不採用になりました。

それからもう一年の浪人。貯金はどんどん減り、妻と子どもをどう養おうと頭を悩ませ、そこまで突っ張る必要があったのか、と髪を切らなかつたことを後悔しました。

個性は外見ではなく違うところで発揮できたのではないかと思いました。後悔するくらいだから、自分にとって「髪を切らないこと」が本当に大事ではなかつたのです。採用試験は選ぶ権利は相手にあり、そのため身にだしなみを整え最善と思わ

れる準備をする。その場にふさわしくないと判断され、印象が悪くなってもそれは自己責任以外の何物でもないのです。

外見で人を判断するな、いいですが、まずは外見でしか判断する材料はないのです。そして誰だつてまずは外見で印象を判断しているのです。まして入学試験、採用試験で身だしなみを整えていないのは、それから先ももっとひどくなるだろうと敬遠されても仕方ありません。「個性」を貫くのであれば、私のように一年棒に振る覚悟があれば、ですが、経験上おススメはしません。

温暖化？氷河と島

ロッキー山脈のバンフという町まで、氷河を見に車で出かけました。駐車場から1kmくらい歩きましたが、なんでこんなに遠い？とぶつぶつ言いながら向かっていくと、途中途中に年代を表示した看板が設置されています。説明を読んでいると元々は駐車場近くにあった氷河が、どんどん溶けて（1年で約10メートル）こんなに遠くまできたということでした。その速度は早まっているそうです。

また、南太平洋の島では、砂浜近くのヤシの木が倒れ堤防がえぐられていました。海面の上昇で砂浜が侵食され、ヤシの木

が根付かないとのことです。道を挟んで二つの砂浜がありました。その距離は狭まっているそうです。

このまま温暖化が進めばいずれはカナダの氷河は消滅し、島の二つの砂浜はつながってしまうでしょう。我々は何をするべきなのでしょう？極端なことではなく日常生活の中で節電や節水などに少し気を配ることだと私は思います。そして、自分自身が当事者であるという意識を持つことが大事だと思うのです。

デモをして誰かに何とかしてもらいたいと訴えるより、自分が取り組むべきことを考え、実行する方が前向きです。感情論ではなく科学的に分析し、温暖化を少しでも軽減できるような技術やシステムを作り上げることこそが地球環境への真の貢献でしょう。私たちの住む地球のために、自分自身の問題として勉強を重ねて、環境にやさしい技術やシステムを開発していくことが環境問題の根本的な解決に向かうと考えています。みなさんはどう思いますか？

校長室より

校長室は広くて日差しがささいので随分と冷え、凍えながら仕事しています。それでも開け放ったドアの向こうから生徒たちの元気な声が聞こえると季節感もあって、学校っていいなと感じます。